

『収益面は依然厳しい状況、課題は競争力へ』

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成21年10～12月期の実績と平成22年1～3月期見通しについての調査結果をまとめた。（回答率80%）調査は3ヶ月毎に年4回行う。

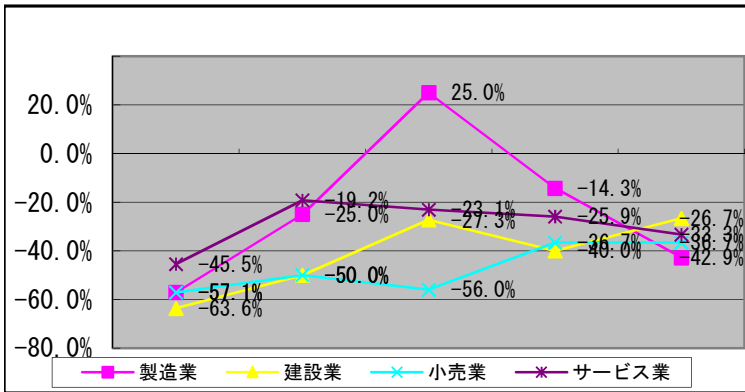
業況DI値について、前年同月比の今期（平成21年10～12月）の状況を集計したところ、業況判断DIは、前回までの各産業の回復基調が頭打ちとなり、マイナス横ばいで推移している。売上については、増減が激しく業況に強い影響を及ぼしていると思われる。資金繰りでは若干の上昇を見せるものの、仕入単価と経常利益に見られる収益面では、全産業ともにほぼ横ばいでマイナス感が依然強い状況にある。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の17.5%、来期設備投資を計画する見通しである企業は12.5%と、投資意欲は上向いてきている。また、今期の経営問題では、各業種とも需要停滞感が根強く、収益面で引き続き厳しい状況と見ている。景気動向の不透明感は拭えず、競争力強化への取り組みが進んでいる。

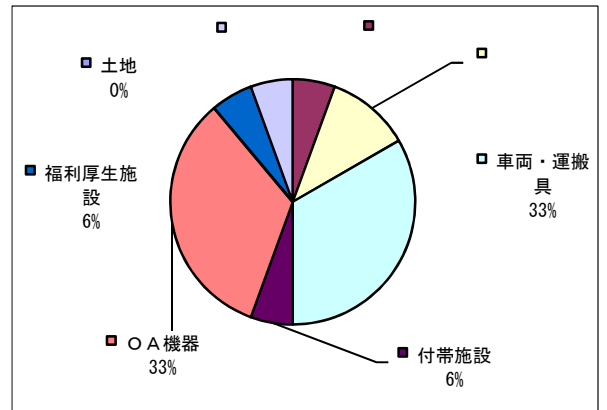
◆業況DI値（今期の状況）

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-33%	→	-40%	→	-30%	→	4%	→	-38%	→	-8%	→
製造業	-14%	↘	-14%	↘	-14%	↘	29%	↗	-29%	↘	0%	→
建設業	-40%	↘	-47%	→	-47%	↗	20%	→	-33%	→	-13%	→
小売業	-37%	↗	-43%	→	-33%	→	-20%	↘	-50%	→	-3%	→
サービス業	-26%	→	-37%	→	-22%	→	11%	→	-26%	→	-11%	→

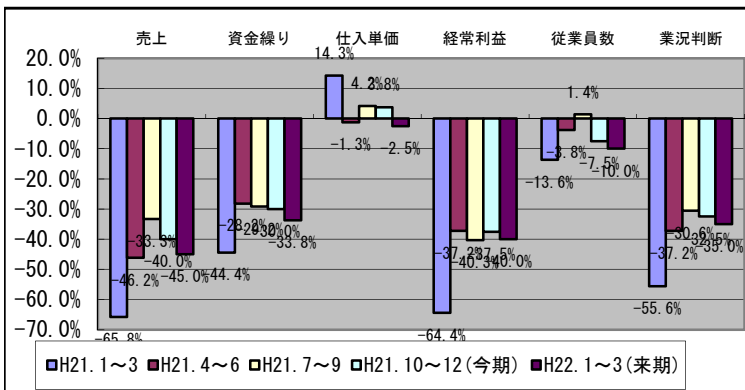
◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）



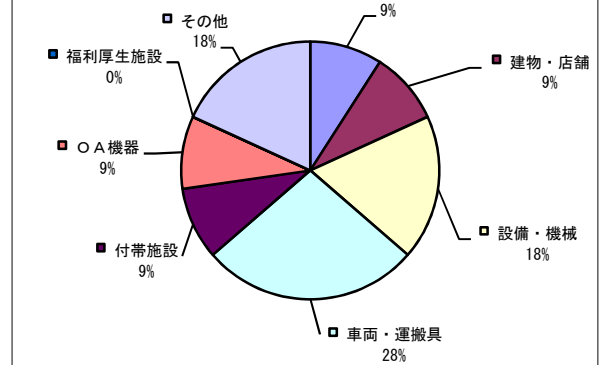
◆新規設備投資（今期実施・来期計画）



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



【来期の実施計画】



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 23.5%	民間需要の停滞 26.8%	需要の停滞 20.9%	利用者ニーズの変化への対応 21.0%
2位	原材料価格の上昇 23.5%	請負単価の低下・上昇難 24.4%	購買力の他地域への流出 14.0%	需要の停滞 19.4%
3位	製品ニーズの変化への対応 17.6%	官公需要の停滞 22.0%	大型店・中型店の進出による競争の激化 12.8%	利用料金の低下・上昇難 11.3%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。